

新潟医療福祉大学 同窓会誌  
Niigata University of Health  
and Welfare  
An Alumni Bulletin

**OH**  
伍桃

No. **15**  
2019.3



特集  
P.1~P.10

世界で、  
活躍する。

# 怪我した選手を 再び世界の 舞台へ。

独立行政法人 日本スポーツ振興センター  
ハイパフォーマンスセンター  
国立スポーツ科学センター  
スポーツメディカルセンター  
アスリートリハビリテーション

アスレティックトレーナー/  
理学療法士

**大桃 結花**

(理学療法学科2007年卒)



## 理学療法士として どんなお仕事をしていますか？

国立スポーツ科学センターのアスリートリハビリテーション室で、理学療法士としてスポーツ選手のサポートを行っています。勤務先は国際総合競技大会等に出場するような強化指定選手が利用する施設なので、様々な競技すべてが対象となります。私の仕事は、医師の指示を元に怪我をしたりコンディションの悪い選手にリハビリを行うことです。患部へのアプローチはもちろんですが、怪我をするということは悪い動きをしている可能性があり、その癖を直すた

めのトレーニングも行います。また、選手を現場に戻すために、体力や筋力等、競技特性を踏まえて多面的にリハビリをコーディネートする必要があります。少しでも早く復帰させるためには、医師はもちろん、栄養、心理、ストレングス、各スポーツの研究者など、様々な専門家と連携することもあり、その重要性を感じています。

## やりがいとは？

みていた選手が現場に復帰して自己ベストを出したり、代表に決まったときはすごく嬉しいですね。復帰に向けて気持ちを絶やさず、いろいろなことにチャレンジしながら前に向かってくれる選手は、何とかしたいという思いが特に強くなります。今は公財日本陸上競

技連盟の仕事でジュニアの大会に帯同させていただく機会もありますが、世界大会で日の丸がセンターポールに上がった時は何とも言えない感慨深い気持ちになりました。ジュニアは教育的な観点で見なければならない点もあり、また荒削りなのでその分面白さがあります。シニアはすでにシビアな世界を経験している選手の集まりなので、また違った雰囲気があります。

## この仕事の難しさ

接するのは一流の選手ばかりなので、競技動作の何をどこまで変えて良いか悩むこともあります。パフォーマンスを発揮している要因が怪我につながっている場合は、そこを直してしまったらパフォーマンスが落ちる可能性もあるので、どうするか非常に難しいですね。また、一般的な研究データは一流選手に当てはまらないことも多いので、そういったことも考慮しながらやっています。

## どんな気持ちで仕事に臨んでいるか

私自身プロの専門家として、その選手の競技人生を左右しかねない立場にいるという自覚を持ってやっています。スポーツもリハビリも人生の一部ではありますが、そこから得ることはリハビリの域を越えてあるはずですよ。私自身、選手からエネルギーをもらっており、その分こちらからも選手の人生に何かを与えられたらと思いながら日々仕事に励んでいます。また、今は大学時代からの目標であった国際大会の出場選手のサポートという職に就けていますが、あくまでも目標は1つの形でしかないで、そこで何をやるかが重要だと思っています。

## 大学時代の学びはどう活かされている？

大学時代に理学療法士としてスポーツの世界で勝負しようと思いましたが、実は1年生の時にアスレティックトレーナーの資格を取得するために他大学に行くか迷ったことがあったんです。その時に指導教員の先生が理学療法の現場へ連れて行ってくださり、パフォーマンスに関わる部分にも理学療法の知識や技術が活かせるのではないかと感じました。それまで理学療法というと怪我から復帰させるイメー

ジしかありませんでしたが、実際にリハビリ現場を見ることで、理学療法の可能性のヒントをもらったのです。今こうして働いてみて、大学時代に理学療法の知識や治療技術を持てたことは本当に良かったと思っています。私は一度社会人として働いたあと、筑波大学の大学院でバイオメカニクスや生理学的な面から陸上競技について学びましたが、大学時代のベースがなかったらここまで来ることはできませんでした。

## 2020年に向けて

2020年に向けてやるべきことは変わりませんが、精度を高め、自分ができることを1つずつ着実に積み重ねてその場に立ちたいと思っています。今は2019年の選考レースへ向けて選手がシビアになってきており、サポートする我々も一刻も無駄にできません。勝負の世界なので、選手だけでなくサポートする人間も勝負していかなければならないと思っています。チャレンジし続けることを忘れずに、2020年に向かっていきたいです。



# 日本の技術をアフリカへ。 双方の架け橋となる。

早稲田大学 スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 研究助手  
アドゥアヨム アヘゴ アクエテビ  
(医療福祉学研究科 博士課程2018年修了)

## 義肢装具の研究を 目指すようになったきっかけ

母国のトーゴ共和国では、義足や義手は高価でごく限られた一部の人が手に入れることができず、しかも障害がある人は義肢装具がないと仕事に就けず、中には物乞いなどをして食いつないでいる人もいます。義足や自立支援の仕組みがあれば多くの人が職に就けるという現実を知り、専門学校で義肢装具の製作技術を学ぶようになりました。トーゴで義肢装具士の国家資格を取得したのち、ガーナで1年間義肢装具を作るボランティアに従事しましたが、技術力

の高い日本でさらに知識を深めたいと考え、2011年に来日しました。留学先に新潟医療福祉大学の大学院を選んだ理由は、日本でも数少ない義肢装具の製作技術を学べる専門の教育機関だったからです。

## 大学院で学んだこと

大学院では義肢装具作りについて学び直し、歩行時の股関節や膝などの動作分析の研究をしていました。学部生と一緒に義肢を製作して技術を学ぶこともありましたし、運動力学を使って義肢の関節の位置を正しく求める方法なども研究しました。動作分析を理解すると、その義足の問題点が見えてきます。アフリカでは義足作りについて学ぶことはできませんでしたが、作った義足が実際にどうなのかというのを評価する

のが大変難しかったので、それまで足りていないと実感していた動作分析の分野について学べたことは、本当に良かったと思っています。自分の夢とつながる分野の知識を学べたことで、すべてがプラスに働いています。2年間の修士課程を終えて博士課程に進みましたが、そこでは特にスポーツなどの激しい運動をする際の動作分析についての研究を深めました。

## 現在取り組んでいる 研究や活動の概要について

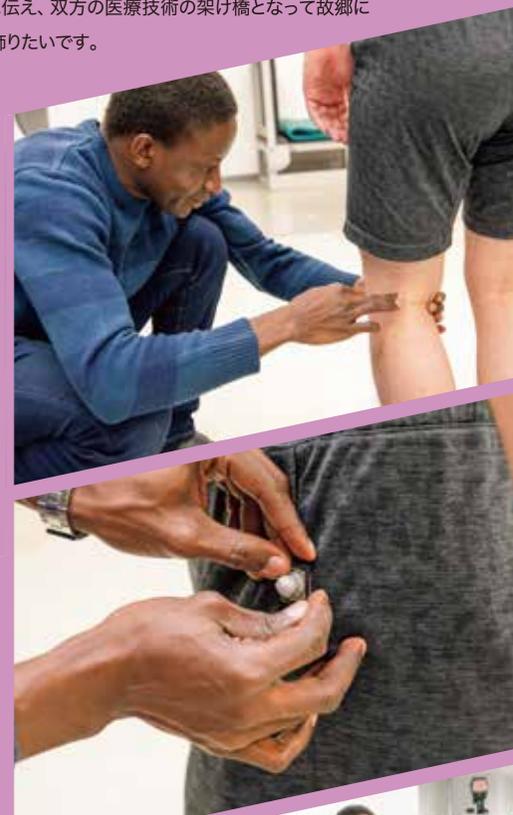
研究助手として、引き続き動作分析についての研究をしています。被験者を研究室に招き、健康な方、高齢者、義足を使っている方の歩行データを収集し、精密な義肢装具を作るのに必要な歩行時の動作研究をするのがメインの研究内容になります。ここでは国内の義肢装具の企業と協力して研究を進めることもあるので、以前より選択肢が広がりました。今後はス

ポーツ用の義足と普通の義足の異なるロコモーション中の床反力の作用点を比較し、義肢装具作りに役立てることも考えています。研究の醍醐味は、分からないことを突き詰め、その先に何かしらの結果が出る。たとえ結果が出るまでの過程が難しくても、人と違う結果が出ると自信につながりますし、何よりやりがいを感じられます。

## 今後の展望

学生時代に日本で働くコンピューター・エンジニアの兄と義肢装具作りの会社を立ち上げ、古い義足の設備やパーツを集めてガーナとトーゴに送り、現地の方に使っていただくという活動をしてきました。また、動作分析の分野においても海外でワークショップなどを開いて研究成果を伝え、それと同時にどうすれば義足の教育がうまくいくかということについても調べてきました。それらの活動は今も継続的に行っており、年に一度は休みを利用してアフリカに渡って研究について教えています。アフリカの人々は海外に行くチャンスも少ないので、新しい知識や技術を持って来ることが難しく、作ることはできても研究の分野は育っていません。義肢装具の材料の多くは海外から輸入していますし、義肢装具士の有資格者も少なく、義足を作

る技術はまだ未だです。今はアフリカにおける義足の問題点はある程度見えてきたので、次のステップに行きたいと考えています。具体的には、アフリカの研究者を増やし、トレーニングセンターとしての機能を持たせた施設で現地の方のスキルアップを図り、義肢装具をアフリカの発展における分野の1つにしたいです。最終的には、アフリカで最先端の技術を駆使した新しい形の病院を作ることが夢。日本で学んだ技術をアフリカに伝え、双方の医療技術の架け橋となって故郷に錦を飾りたいです。



# 世界と戦うための、 あと0.3秒/100m

陸上短距離(100m・200m)選手

**前山 美優**

(健康スポーツ学科2018年卒)

## 現在、取り組まれている競技は？

陸上競技の短距離走100m・200mを専門としています。また400mリレーも視野に入れ、日本代表のメンバーに入れるように練習を続けています。走る速さは、歩幅の広さ「ストライド」と脚の回転数を表す「ピッチ」の掛け算で決まると言われています。私の身長は172cmと国内だと高いほうなので、ストライドを活かした走りが特徴です。現在は、2019年6月末に行われる日本選手権での優勝を目標に練習に取り組んでいます。

## 陸上競技をはじめたきっかけは？

幼少期から走ったり、球技をしたり運動が得意でした。小学校ではミニバスケットボールクラブに所属していたのですが、中学校の部活を決めるときに友人と陸上競技部の先生に誘われ競技をはじめました。成長期だったことや初心者だったこともあり、練習するとすぐに記録が伸びていきました。チームプレイとは違い、自分次第で結果が出ることに面白みを感じ、陸上に打ち込むようになりました。

## 大学での成績は

高校3年生のときに迎えたインターハイで、初めて入賞。さらに4x400mリレーでも準優勝。このとき

は「やり切った」と感じていたのですが、大会直後に怪我。その後の国体では結果を残せず、「このまま競技をやめたら後悔する」と思うようになりました。そんなタイミングで2020年に東京で国際大会が開催されることが決定。日本での開催となる、一生に一度の機会を運命のように感じ、競技継続を決め、新潟医療福祉大学の陸上競技部に入部しました。

1・2年次は、怪我をして練習ができない日々も続き、思うように記録を伸ばすことができませんでした。しかし、苦しい時期を乗り越えた3年次のシーズンは、痛みなく走れることが楽しく、挑戦的な気持ちで大会に臨むことができました。結果、日本学生個人選手権では、100mで優勝。翌2017年も優勝し連覇をすることができました。苦しい練習を乗り越えたからこそこの記録でした。しかしその後は、勝負どころで弱さが露呈し、国体、日本選手権などでタイトルを取ることができませんでした。

## 仕事と競技の両立について

2018年4月からは、アルビレックスランニングクラブに所属。日中は新潟医療福祉大学の教務課で、欠席届や合宿・遠征届、JR通学証明書など授業や履修の手続き、証明書等を学生が申請する際の対応をしています。勤務時間は平日の8時30分～14時。それ以降は、新潟市中央区の陸上競技場に移動して練習しています。コーチは高校時代の恩師である小杉隆先生にお願いし、周りの気遣いやサポートのおかげでスムーズにシーズンに入ることができました。しかし、優勝を目指した6月の日本陸上競技選手権大会では、100m6位、200m4位と思うように走れませんでした。結果を求めていただけに、自分自身への悔しさも大きく、社会人としての環境の変化も影響したのか、その後はなかなかコンディションが上がって来ませんでした。そんな中でも、同僚の皆さんも応援してくださったり、声をかけてくださったりと、いつも気にかけてくださいます。競技に集中させていただいていることに感謝し、記録で恩返ししたいです。

## 2020年に向けて

世界と戦うためには100mのタイムを11秒20台まで持っていく必要があります。今の私の記録は、自

己ベストで11秒51。ストライドを活かしつつも、ピッチをあげる走りで記録が伸びるように練習を重ねていきたいです。また、これまでの経験から大会までにメンタルを整えていく重要性も感じています。結果が出た大会は、コンディションを持っていくだけでなく、ポジティブな気持ちで当日を迎えることができていました。特に大会前の1週間前の過ごし方を大切にして、期待感やワクワクする気持ちを当日までしっかり持っていくことを意識して、大会に臨みたいと思います。

## 同窓生へメッセージ

本学で過ごした4年間があるからこそ、人生がとて豊かなものになったと思っています。日タトレニングに動しむなかでたくさんの方々からご声援、ご支援をいただいています。こうした皆さんのおかげで競技に取り組むことができていたことを忘れず、感謝の気持ちを持って、練習に励んでいきます。今後とも応援していただけましたら幸いです。

# 激しいボディコンタクトや高波、潮の流れに挑む水泳競技

オープンウォータースイミング選手  
青木 陽佑  
(健康スポーツ学科2016年卒)

## 現在、取り組まれている競技は？

オープンウォータースイミング(以下、OWS)という海や川、湖などで実施される長距離の水泳競技を行っています。室内で行われる競泳とは異なり、コースは仕切れず、他選手との激しいボディコンタクトがあることや、天候や波など自然の影響があるのが特徴です。また、競泳の長距離は1,500mですが、OWSの国際大会は10kmを2時間かけて競うので、他の選手との距離をどう取るか、ペース配分、給水、スパートをどこでかけるかなど、戦略的な部分の多い競技だと思います。

## OWSをはじめたきっかけは？

5歳から水泳をしていて、大学でも競技を続けたいと2012年に新潟医療福祉大学の水泳部に入学しました。1,500m自由形の選手として全国大会に出場はしていましたが、選手層の厚さを感じていました。日本水泳連盟からOWSの誘いを受けて、大学2年生のとき初めて出場した大会で入賞できたことで、OWSの選手として本格的に練習をするようになりました。

海ではレジャーとして泳いでいた程度で、競技として海で泳いだ経験はありませんでしたが、ぶつかり合うボディコンタクトの強さや、高波への対応などに適正があったようです。同じ海でも潮の流れや波の高さは毎日違います。刻々と変わる潮や波の動きを読み、得意な潮の流れでは前方へ行き、不得意な潮の

流れのときは後方へまわったりと状況に合わせてポジションを変えたりするなど、他選手との駆け引きの面白さもあり、気づけばOWSにのめり込んでいきました。

## 仕事と競技の両立について

もともとは卒業のタイミングで選手生活を終え、指導者の道へ進もうと思っていました。しかし大学4年次にOWS日本代表に選ばれたこともあり、競技を続けたいと強く思うようになりました。医療福祉大学水泳部は、スタッフ陣、設備や、大学徒歩圏内に海があるなど日本屈指の練習環境だと思います。監督や周りの皆さんに相談し、大学の職員として働きながら、ここで競技を続けさせていただけることとなりました。

現在は学生課の職員として、学生が快適に大学生活を送れるようにサポートしています。通学証明や駐車許可、奨学金の手続きなど学生に関することで

あれば何でもやります。勤務時間は平日の9時30分～15時30分。それ以外の早朝や夕方以降の時間は練習に費やしています。また、海外での大会や合宿などで長期間職場にいないこともあります。そうしたときは他の職員に業務をフォローしていただくことも。同僚の皆さんはいつも「頑張っね」と快く送り出してくれるので本当に感謝しています。

## 2020年に向けて

2020年の国際大会に出場できる10kmのOWS選手は、世界でたった25人。そこに選ばれるためには2019年の国際大会で結果を残さなければいけません。改善すべき箇所はまだたくさんあります。まずは純粋にスピードを伸ばすこと。これは室内の競泳のタイムになるので、室内で鍛えることで泳力を伸ばしていきたいと思っています。そして、他選手との接触や、波への対応などOWSならではの経験値も積み上げていきたいです。例えば、OWSのゴールと認められる瞬間は頭上にある看板をタッチしたとき。10kmという長いレースでもタッチの差で勝負が決まることが多々あります。たとえ頭が先に出ていても手が看板にタッチしていないとゴールとして認められないため、先に看板に触るテクニックも重要です。

長い距離を泳ぐための持久力から、最後のスパートをかける瞬発力、そして細かい駆け引きのテクニックなど、さらに研究していきたいと思っています。

## 同窓生へのメッセージ

本学は2001年に開学した歴史の浅い大学です。その分、記録や名を残した人はまだ少なく、選手として歴史に名を刻むことに挑戦しがいがあります。本学がスポーツ校として発展してきたのは多くの卒業生が築いてくれた礎のおかげです。私も卒業生のひとりとして、また大学で働きながら競技を続けている身として、この礎をさらに発展させ、まずは日本中に『新潟医療福祉大学』の名を轟かせていきたいと思っています。



## 海外での経験を 日本に還元したい

独立行政法人国際協力機構  
青年海外協力隊 東ティモール  
福祉用具隊員

宮田 祐介

(義肢装具自立支援学科2013年卒)



### 今後のキャリアビジョン

経験上、東ティモールとタイのことは分かりませんが、開発途上国と言われる国にはまだまだ医療にかかれない障がい者がたくさんいると思います。そういった人たちのもとで義肢装具士として仕事をするため、国際機関に参加することを目標にしています。また、同時に現在勉強している内容を進捗させ、博士課程への進学も視野に入れて考えています。何年先になるかは分かりませんが、いつかそういった海外での経験を日本に還元できるように、挑戦し続けたいと思います。



### 同窓生へメッセージ

働く場所や立場は異なっても、医療チームの一員として患者様のQOLサポートを心がけていることはみなさん同じだと思います。高い志を持ち、知識と技術を磨き続け、多くの経験を積み、少しでも困った人の役に立てるようお互い努力し続けましょう。

### 海外での活動について

小さい頃から日本と異なる環境や世界の広さを自分の目で確かめてみたいという思いがあり、縁あって青年海外協力隊に参加させていただきました。東ティモールでは同僚のアシスタントと協力して2年間で507人の障がい者に義足や装具の提供を行い、拠点となる首都まで来ることができない地方の障がい者のために地方巡回にも3回参加しました。その際、開発途上国ならではの問題をたくさん目の当たりにしました。現在はそういった問題をより深く学び、少しでも解決したいという思いからタイの大学院に進学し勉強させてもらっています。



### 現在の仕事内容・活動内容は？

奈良県にある義肢装具製作会社に3年間勤めた後、青年海外協力隊に参加し、東ティモールの首都ディリにある国立リハビリテーションセンターにて義肢装具の製作・同僚への技術指導を2年間行いました。2018年7月に帰国した後、同8月よりタイ王国の国立マヒドン大学医学部義肢装具学科の修士課程に進学し、現在は開発途上国向けに安く扱いやすい義足の材料に関する勉強をしています。

### 現在の仕事内容・活動内容は？

植物性乳酸菌を用いた発酵技術を利用し、主にお米のたんぱく質を除去した「低たんぱく製品」を開発しています。「低たんぱく製品」は腎臓の機能が低下した慢性腎臓病患者様向けに、たんぱく質を低減させたパックごはんや炊飯器で調理する米粒タイプ、米粉パンなど主食を中心としたラインナップを揃えています。私の所属するテクニカルセンターは、研究開発部門と品質管理部門の統合組織であり、乳酸菌を始めとした微生物を用いた発酵の研究から加工技術を組み合わせた製品開発までを手掛けています。品質管理では、食品安全の国際認証FSSC22000を取得し、工場を含めた衛生管理を担っています。

### 海外での活動について

2014年からJICAの普及実証事業にてフィリピンで「低たんぱくごはん」の加工技術指導及びガイドブック・レシピブックの策定を国の機関と共に手掛け、同時に2015年にフィリピンに子会社を設立させた事などから渡航回数は2~3カ月に1回という時期もありました。フィリピンの工場で作った低たんぱくのごはんを病院に通う患者さん達に食べて頂き、そこでは新たに策定した食事ガイドブックと共に食事療法の指導も行ってもらいました。

フィリピンの工場は生産効率化や新商品の追加で改装計画や新工場建設準備などの広がりを見せる中、米食文化であるアジア周辺への販路開拓に関しても現地での学会、展示会や病院のシンポジウムに参加し、商社や物流会社、病院などと製品の説明や商談を行っています。

### 今後のキャリアビジョン

日本では薬局やスーパーなどでもよく見かける「治療用途の食品」は海外では見つけることが難しいです。世界的に糖尿病患者が増える現状で、糖尿病性

## 腎臓の負担を減らす 「低たんぱくごはん」を 世界へ

株バイオテックジャパン  
食品製造業、研究開発業務・  
品質管理業務・海外業務・顧客サポート

山口 正樹

(健康栄養学科2006年卒)



### 同窓生へメッセージ

腎症の患者さんも多くなってきています。慢性腎臓病は、腎機能が低下すると体内の毒素を排出できなくなり、そのために透析治療を行うことが必要ですが、アジアの現状では透析を受けることが出来る裕福な人は限られています。「低たんぱくのごはん」を日本から海外へと展開することは、利用者の腎臓への負担を減らし、腎機能を低下させないようにするとともに、その食事療法の考え方を普及させることも我々の技術が寄与できる事と考えます。

日本で知り得る情報だけで物事を考えても上手くいきません。現地に行って初めてわかることが何となくたくさんあることでしょうか。文化の違い・商習慣の違い・価値観の違い、机の上で考えていることは簡単に覆されます。

現地に行ってみて感じたことは、世界との距離を遠く考えすぎていたかも、という事です。

皆さんの海外での活躍を応援しています。

# 連携研修会

地域の障害児を支援する多職種間連携  
～教育現場やリハビリテーションの視点から～



2018年11月3日(土)、母校・新潟医療福祉大学を会場とし、「連携研修会」が開催されました。「教育」をテーマに掲げ、教育現場やリハビリテーションの視点から地域の障害児を支援する多職種間連携について考究致しました。また研修会実施後に情報交換会も開催し、研修会に参加された同窓生同士のコミュニケーションはもちろん、在学生が同窓生に様々な質問するなど楽しい時間を過ごしている様子でした。

## 「連携研修会」とは・・・

2013年より開催され、今回で6回目の開催となります。新潟医療福祉大学での連携教育を踏襲し、専門職としての資質向上(スキルアップ)の実現を目的とした同窓会の中核を担う事業です。同窓会では、卒業教育・生涯教育を充実させるとともに、専門職として活躍している同窓生同士の新たな連携方法を模索し、相互の親睦を深める機会を提供しています。

## 第一部 特別講演

### 地域の障害児を支援する多職種間連携 ～教育現場やリハビリテーションの視点から～



本学理学療法学科にて教鞭を振るっている正木光裕講師より、地域での障害児支援についてアツくご講演頂きました。講演では、地域で障害児を支える多職種間連携について施設ごとに詳しく説明されました。また日本を飛び越えベトナムやスウェーデンの状況なども紹介して頂きました。さらに教育現場での多職種間連携についても、ご自身の特別支援学校での支援方法を踏まえながら説明して頂きました。

#### 正木先生のコメント

地域での障害児支援は、「その土地の人々や町並みを大切に思う気持ちを抱いたうえで、ただ人の役に立ちたいと思った頃の初心に戻ることを欠かさずに地域の障害児や両親とともに歩む」ことが大切です。



## 第二部 同窓生活動報告

### 多職種間連携など同窓生の活動報告

研修会第二部では、同窓生4名(理学療法士2名、看護師2名)の方より、ご自身の勤務地にて行われている「多職種間連携」の実例をご報告頂きました。今回の研修会では「教育(=教えること)」をテーマに掲げているため、病院や特別支援学校における多職種間連携の現状や課題について率直に語って頂きました。



諸橋 えみなさん(理学療法学科2018年卒)  
国立病院機構 西新潟中央病院 勤務



須田 麻愛さん(理学療法学科2018年卒)  
富山県 リハビリテーション病院・  
こども支援センター 勤務



大間 拳人さん(健康スポーツ学科2015年卒)  
新潟県立 佐渡特別支援学校 勤務



渡辺 杏葉さん(健康スポーツ学科2016年卒)  
新潟県立 はまなす特別支援学校 勤務

## 総 評

新潟医療福祉大学同窓会 首都圏支部副支部長  
岡村 聡之さん(健康栄養学科2005年卒) 学校法人埼玉医科大学 埼玉医科大学病院 勤務



同窓会首都圏支部役員として、企画・運営して今年6回目を無事終了しました。前5回は医療・福祉現場における多職種間連携を中心に実施してきましたが、今回は初めて教育現場における多職種間連携を実施しました。医療現場で働いている私にとって、教育現場での多職種間連携をイメージできた貴重な研修会でした。卒業後5年未満の同窓生から活動報告をして頂き、初々しさを感じられた中に

も、社会人かつ専門職種として責任ある立場で活躍されている姿を見ることができました。人の役に立つために自己研鑽を怠らず、日々の日常臨床に携わっていかうと改めて考えさせられました。同窓会主催の卒業教育として、この研修会をさらに発展していけるように尽力致しますので、今後とも本学同窓生ならび教職員の皆様には、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

## 参加者VOICE

今回の連携研修会は専門職として現場で働く同窓生が、現場での経験と課題を他の専門職や在学生に還元している場面が随所に見られて、有意義な時間となりました。また、卒業後にそれぞれの道で頑張っている同窓生の講演はとても刺激になりました。現場で活躍する同窓生が増えていく中で、連携研修会を今以上に普及させ、そして定着させていくことは大学が掲げる「生涯教育」にも必ず繋がると考えております。

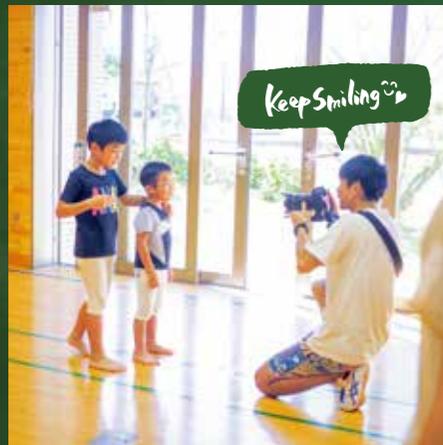


## 同窓会×伍桃祭

# あそびの ひろば

を開催!

2018年10月6日(土)、同窓会×伍桃祭コラボレーションイベント『あそびのひろば』を開催しました!  
今回は、スポーツストレッチ、YOGA、キッズ・ファミリー写真撮影コーナーなどに加え、たこ焼きやカイロプラクティック骨盤調整体験も提供しました。多くの同窓生やパパ&ママ、ちびっこたちにご来場いただき、会場は大いに盛り上がっていました。当日は同時に開催していた「伍桃祭」にも足を運んでいただき、久しぶりに大学を訪れた同窓生たちからは、母校の発展に驚きの声が上がっていました。多くの方のご来場、本当にありがとうございました。



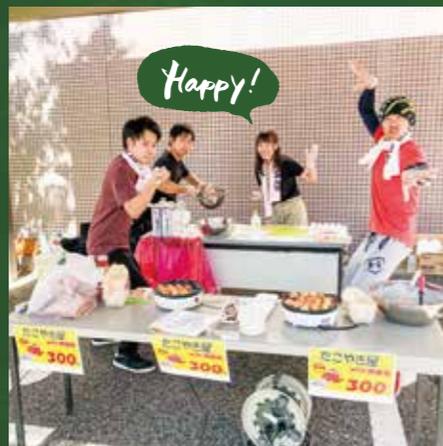
Keep Smiling



Hi!



NICE!



Happy!



LOVE



## 国家試験・資格試験“合格祈願”“大願成就” クリアファイル寄贈

今年も、国家試験・資格試験を受験する在学生の皆さんの合格と大願成就を祈願し、同窓会より合格祈願・大願成就グッズを贈呈しました! クリアファイルには前年度に卒業した同窓生から、後輩たちに向けた2種類のメッセージが添えられており、夢や目標が叶うようにとの願いが込められています。

別々のメッセージが記載された2種のクリアファイルが寄贈されました。

- メッセージ① 戦う相手は自分、他人は気にするな!
- メッセージ② 希望を胸に大きく羽ばたこう!

夢や目標に向けてがんばるぞ



## 理学療法学科 1期生同窓会

江原義弘先生、小林量作先生にもお越しいただきました。

2018年10月28日(日)、レストランブルーームにて理学療法学科1期生の同窓会を行いました。大変お忙しい中、江原義弘先生、小林量作先生にもお越しいただき、1期生も17人が出席しました。今回の同窓会は、小林先生が今年度で御退官されるため、開催することとなりました。ささやかではありますが、御退官の

お祝いもさせていただき、1期生からの記念品、1・2・5期生共同の記念品を贈呈させていただきました。卒業後14年目にして初めての同窓会でしたが、学生当時を懐かしんだり、近況を報告しあったりと充実した楽しい時間を過ごすことができました。

開催幹事: 渋谷裕香さん(旧姓: 齋藤)



## 学科同窓会を 開催しませんか?

同窓会では、学科同窓会の開催を積極的に応援しています! 卒業後〇周年という節目だけではなく、「〇学科〇期生同窓会」といった同期会など、母校を卒

業した仲間たちとの交流会を開催しませんか!? 開催のご相談は、同窓会支援室(dosokai@nuhw.ac.jp)までご連絡ください!

## 『連携総合ゼミ』に 同窓生10名が 参加



2018年9月3日(月)～9月7日(金)に開催された「連携総合ゼミ」に今年も同窓生が授業サポーターとして参加しました。具体的な症例をもとに学科混成グループで支援策を検討している在学生たちに、専門職としての経験やアドバイスを伝えました。在学生や先生からも好評です。次年度も9月4日(水)に開催予定です。協力いただける、同窓生からのご連絡お待ちしております。

### 【参加者一覧】

- 田村 祐美さん(理学療法学科2007年卒/新潟医療生活協同組合なじよも所属)
- 長島 裕子さん(理学療法学科2007年卒/新潟リハビリテーション大学所属)
- 渡邊 貴博さん(作業療法学科2010年卒/新潟大学医歯学総合リハビリテーションセンター所属)
- 岡村 聡之さん(健康栄養学科2005年卒/埼玉医科大学病院所属)
- 新村 友子さん(健康栄養学科2005年卒/新潟医療生活協同組合なじよも所属)
- 熊谷 麻美さん(社会福祉学科2010年卒/社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院所属)
- 金子 達也さん(社会福祉学科2007年卒/社会福祉法人新潟市中央福祉会所属)
- 永正 崇文さん(社会福祉学科2007年卒/株式会社はあとふるあご所属)
- 能登友紀恵さん(看護学科2016年卒/黒部市市民病院所属)
- 飯吉理紗子さん(看護学科2017年卒/新潟市市民病院所属)



### 同窓生の感想(一部抜粋)

学生からは、着眼点の鋭い質問、発想力豊かな質問が多く、このような素晴らしい学生と将来、一緒に仕事ができる日を楽しみに感じました。  
熊谷 麻美さん

多職種連携の大切さを改めて感じ、卒業生との交流が持て、大変有意義な1日でした。  
新村 友子さん

私自身の学生時代と重ね合わせると、恥ずかしくなる程、履修している学生の意欲・意識の高さに驚きました！  
渡邊 貴博さん

どのゼミも医療と福祉からの多角的な視点を持ち、上下関係なく、率直な意見交換が見受けられました。また、「QOL」「子どもの最善の利益」などの根源的な視点もあり、困難事例も十分な検討がなされていると感じました。  
永正 崇文さん

参加した同窓生のモチベーションが高く、積極的に同窓生とディスカッションされていました。このような地道な活動が、同窓会活動を活性化し、在学生にも同窓会活動を啓蒙できるよい機会だと思います。  
岡村 聡之さん

# Tool of Professional

ツール オブ プロフェッショナル

激務の日々を過ごす医療従事者にとって欠かせない、「相棒」とも言える仕事道具。そんなプロフェッショナルが日々大切にしているツールをご紹介します。

川口市立医療センター 眼科 視能訓練士 辻 拓海 さん(視機能科学科2018年卒)



### ▶ 光干渉断層計(以下OCT)

近赤外光を利用した網膜の断面像を画像で撮ることが可能であり、非観血で細かい細胞まで撮影できる検査です。網膜疾患の診断や術後評価に有用です。大学の実習でOCTに触れる機会が少なく不安を残したまま就職しました。就職して最初の頃はOCTの検査を担当していました。白内障などの濁りの影響で撮影が難しい状況には苦戦をしていました。ですが、数をこなす度に撮影が難しい患者様の検査をして綺麗に網膜の画像を撮る事ができるようになり、とてもやりがいを感じます。今では一番自信をもって検査ができるようになりました。



### 勤務先の紹介

当院は診療科数29科病床539床を有する地域支援医療病院です。視能訓練士は4名在籍しています。視能訓練士の業務は主に検査です。眼科医師の指示の下患者様に必要な検査を行い、患者様の治療をサポートしています。当院の眼科では、特定難病疾患の患者様や弱視・斜視の患者様が多く来院されます。その方達に正確で確実な検査を行い確かな医療を提供できるように、自身のスキルアップを目標に就職しました。



### 仕事の流れ

- ①眼科検査機器の立ち上げ(視力検査機器・屈折検査・眼圧検査・視野検査・眼底検査・白内障手術前検査)散瞳薬などの検査薬の準備
- ②前日に手術された患者様(白内障手術・硝子体手術)の視力・屈折・眼圧検査を行う
- ③予約・紹介・他科依頼に対して患者様の眼科一般検査(視力検査・屈折検査・眼圧検査・眼底検査・視野検査)を行う
- ④白内障手術に使用される眼内レンズの整理
- ⑤検査用紙をPCに取り入れ、検査機器を掃除して電源を切る

### 同窓生へのメッセージ

視機能科学科初卒の卒業生で、先輩がいなくて就職の時に不安しかありませんでした。そんな時期から早くも一年が経ちました。自分自身あつという間の一年であり、沢山の事を周りの方々から学ばせて頂きました。みんなが視能訓練士としてどのような一年を過ごしたのかとも気になります。学会や研修会でお会いできることを楽しみにし、その時は助言など言い合えたら嬉しいです。一日でも早く視能訓練士の先輩方に並ぶことができるように共に自己研鑽していきましょう。

# 強化指定クラブ活動報告

## 陸上競技部・水泳部 本学初!! インカレチャンピオン誕生!

### 陸上競技部

男子走り高跳びで長谷川直人選手(健康スポーツ学科4年)が見事優勝しました!  
また男子駅伝では全日本学生駅伝に初出場を果たしました!

また、長谷川直人選手、高倉星也選手(健康スポーツ学科4年)の2名が新潟アルビレックスランニングクラブに加入決定しました!

**[2019年度大会日程(予定)]**

- 5月 北信越学生陸上競技対校選手権大会
- 6月 日本陸上競技選手権大会
- 9月 日本学生陸上競技対校選手権大会
- 10月 全日本大学女子駅伝対校選手権大会
- 11月 全日本大学駅伝対校選手権大会



### 水泳部

100mバタフライで水沼尚輝選手(健康スポーツ学科4年)が優勝!  
ワールドカップでも男女混合200mフリーレーで松井浩亮選手(職員)、田中優弥選手(健康スポーツ学科2年)、寺山真由選手(健康スポーツ学科3年)、佐藤綾選手(職員)が強豪オーストラリアを破り、見事金メダルを獲得!国際大会で初優勝の快挙を成し遂げました。

**[2019年度大会日程(予定)]**

- 4月 日本選手権水泳競技大会
- 5月 ジャパンオープン
- 6月~7月 中部学生選手権水泳競技大会
- 9月 日本学生選手権水泳競技大会(インカレ)
- 9月 日本選手権水泳競技大会(OWS競技)



### 女子バスケットボール部

北信越春季リーグ戦では11年連続11回目の優勝を果たしました。西日本学生大会ではベスト32、皇后杯1次ラウンド進出もしましたが、3年ぶりのインカレ出場は残念ながら叶いませんでした。



### 男子バスケットボール部

今年度は北信越春季リーグ・秋季リーグ共に2位になり、3年ぶり5回目のインカレ出場を果たしました。残念ながら1回戦敗退となりましたが、インカレチャンピオン相手に最後まで諦めずにチャレンジしました。



**[2019年度大会日程(予定)] 男女共通**

- 5月 笹本杯争奪北信越大学バスケットボール春季リーグ戦
- 6月 西日本学生バスケットボール選手権大会
- 10月 北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選
- 11月 全日本大学バスケットボール選手権大会

### ダンス部

今年度はアーティストックムーブメント・イン・トヤマにて審査員賞(3位相当)を受賞しました!  
9月に行われたアーティストックムーブメント・イン・トヤマでは、創部6年目にして初の受賞となりました。集団で見せる夏の神戸コンクールとは対照的に個々の技術や斬新なアイデアが求められる富山では、ステージに上がる人数は少人数とはいえ、より一人ひとりのダンサーの力が如実に問われる特色があります。

**[2019年度大会日程(予定)]**

- 8月 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)
- 9月 アーティストックムーブメント・イン・トヤマ
- 12月 秋田モダンダンスコンクール



### 女子サッカー部

●三浦唯選手(健康スポーツ学科4年)が、ノルディア北海道(チャレンジリーグ)への加入決定!  
●7年連続7回目のインカレ出場(1回戦:1-2 対 吉備国際大学/中国地区2位)  
●チャレンジリーグでは総合7位となり、1部残留を決定。  
●2019年イタリア・ナポリで開催されるユニバーシアード日本女子代表候補選手に、園田悠奈選手(健康スポーツ学科2年)、田中美和選手(健康スポーツ学科2年)の2名が選出、12月4日(火)~12月6日(木)にかけて静岡県で開催された代表候補合宿に参加。

**[2019年度大会日程(予定)]**

- 4月~7月 2019年女子サッカーリーグ
- 北信越女子サッカーリーグ
- 9月 2019年女子サッカーリーグ プレーオフ
- 12月~1月 全国大学女子サッカー選手権大会



### 男子サッカー部

●上米良終人選手(健康スポーツ学科4年)が、SC相模原(J3)に新加入決定!  
●天皇杯出場(1回戦敗退:2-3 対 AC長野パルセイロ)  
●総理大臣杯トーナメント出場(1回戦敗退:1-2 対 中京大学)  
●2年連続5回目のインカレ出場、ベスト16という結果に。(1回戦:3-1 対 東海学園大学/東海地区第1代表)(2回戦:2-3 対 法政大学:関東地区第3代表)  
●矢村健選手(健康スポーツ学科3年)がアルビレックス新潟への2020シーズン新加入内定!また「JFA・Jリーグ特別指定選手」認定!

**[2019年度大会日程(予定)]**

- 4月~ 天皇杯
- 8月 総理大臣杯
- 4月~11月 北信越大学リーグ
- 12月 インカレ



### 女子バレーボール部

北信越大会は春秋共に優勝!東日本インカレではベスト16に、そして今年度は5年連続5回目のインカレ出場を果たしました。結果はベスト32となりました。本学初のVリーグ選手が誕生しました!

・白岩蘭奈選手(健康スポーツ学科4年)  
KUROBEアクアフェアリーズ(Vリーグディビジョン1)  
・唐川愛璃選手(健康スポーツ学科4年)  
岐阜リオレーナ(Vリーグディビジョン2)

**[2019年度大会日程(予定)]**

- 5月 春季北信越大学バレーボール選手権大会
- 6月 東日本バレーボール大学選手権大会
- 10月~11月 秋季北信越大学バレーボール選手権大会
- 11月~12月 全日本インカレ



### 硬式野球部

今年度は関甲新学生野球連盟春季1部リーグ戦6位、新人戦 2位、秋季1部リーグ戦5位という結果になりました。また、硬式野球部創部6年目にして本学2人目のプロ野球選手が誕生しました!

漆原大晟選手(健康スポーツ学科4年・新潟明訓高校出身)がオリックス・バファローズより育成1位指名されました。

**[2019年度大会日程(予定)]**

- 4月~5月 関甲新学生野球連盟 春季1部リーグ戦
- 6月~7月 関甲新学生野球連盟 新人戦
- 9月~10月 関甲新学生野球連盟 秋季1部リーグ戦



## 同窓生も 応援へ行こう!

今年度、部活動応援の際に使用するマフラータオルを作成しました。早速、全日本女子駅伝の応援に使用しました。今後も部活動応援に役立てていきたいと考えております。マフラータオルは非売品です。



同窓会が  
設立15周年を  
迎えます。



本学同窓会が設立15周年を迎えます。同窓会誌同窓会と共に歩んできました。これまでの同窓会誌をご覧ください。見覚えのある表紙はありますか。同窓会は一人一人の同窓生が主役です。これからも変わらぬ協力をよろしくお願いいたします。

### 新潟医療福祉大学の歩み

同窓生 **8,392**人  
学科編成 2004年 **5**学科  
(2学部5学科)  
学生数 2004年度卒業生数 **301**人  
2019年度卒業生数 **960**人

### キャンパス増築



## 2019年秋 設立15周年記念式典 開催予定！

詳細は9月発刊のNews letter、同窓会ホームページにてご案内いたします。皆様の参加お待ちしております。

次代の保健・医療・福祉・スポーツ分野を担う、教育者・研究者・高度実践専門職業人をを目指す。

# 新潟医療福祉大学 医療福祉学研究科

本学大学院では、社会人の方も学びやすい昼夜開講制に加え、長期履修制度、各種奨学金制度など、様々な面で皆さんの「学びたい」をサポートしています。

また、国家資格を有している方が、さらに専門的で高度な技術や知識の習得を目指す、または各種職能団体等による専門職資格の習得を目指す、かつ修士の学位取得もできる「高度専門職業人プログラム」を提供しています。キャリアアップを目指している方、少しでも興味をお持ちの方はお気軽にお問い合わせください。

### ■修学をサポートする制度

- 本学卒業生は、入学金半額(10万円)免除
- 平日は18:10から授業スタート。土曜開講や集中講義もあります。
- 長期履修制度(修士課程:最長4年、博士後期課程:最長6年)
- 教育訓練給付金指定講座(一部対象外)

### ■各種奨学金制度

- 大学院無利子貸与奨学金(学費の全額または半額を無利子で貸与)
- 特別研究奨学金(卒業生対象、年間15~20万円を給付)
- 修学奨励奨学金(2年時に15~20万円を給付)

### 注目 修士課程学費減免特待生制度

優秀で経済的に修学が困難な方を対象とした制度です。採用された場合、2年間合計で**最大110万円**の学費が減免されます。(分野や年次により減免額は異なります) **詳細は大学院HPをご覧ください** <https://www.nuhw.ac.jp/grad/>

資料請求やお問い合わせは本学大学院入試事務室まで **TEL : 025-257-4500 FAX : 025-257-4505 E-mail:grnyuusi@nuhw.ac.jp**

## 大学院と仕事の両立

### 刺激のある毎日で 人生にメリハリを

私は現在、義肢装具自立支援学分野に在籍しています。本学の大学院に進学した理由は、臨床場面で多くの疑問を持つようになったからです。私の勤務する病院では脳血管障害を中心としており、装具療法による理学療法を実践することが多いです。本分野では、装具やバイオメカニクス、動作分析など理学療法に必要なことを多く学ぶことができます。また、高度な研究スキルを身につけた上で、臨床での疑問を究明する必要があると考えたからです。

私の研究課題は、脳卒中片麻痺者の歩容を改善するトレーニング手段を運動学、運動学的に評価し歩行に

与える影響を明らかにしていきたいと考えています。脳血管疾患は三大疾病に指定されており、QOLが著しく低下する原因とされています。我々QOLサポーターにとって障害を持った中では非常に重要です。脳卒中片麻痺者の歩行において、歩行速度が向上することでQOLの向上が認められるとされています。そのため、今後の研究で歩行再建における新しい知見を示し、少しでも脳卒中片麻痺者の方に対して還元できればと考えています。

大学院入学前は、時間の使い方を考えることはありませんでした。仕事と学業を両立するうえで時間を効率的に使うことの重要性が認識でき、公私ともにメリハリをつけて生活を送ることができています。また、いろいろな方と接する機会が増え日々刺激を受けることができるためモチベーションの向上にも繋がっています。

### 医療福祉学専攻

(博士後期課程)

#### 健康科学専攻

- 健康栄養学分野
- 健康スポーツ学分野
- 看護学分野

#### 保健学専攻

- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚学分野
- 義肢装具自立支援学分野
- 医療技術安全管理学分野
- 視覚科学分野

#### 社会福祉学専攻

- 保健医療福祉政策・計画・運営分野
- 保健医療福祉マネジメント学分野

#### 医療情報・経営管理学専攻

- 医療情報・経営管理学分野

### 【高度専門職業人プログラム】

- 看護学分野 高度実践看護師(がん看護専門看護師)コース
- 理学療法学分野 臨床徒手理学療法コース
- 健康栄養学分野 臨床栄養専門コース
- 社会福祉学専攻 認定社会福祉士単位取得コース
- 理学療法学分野 急性期理学療法コース

社会医療法人 桑名恵風会 桑名病院  
リハビリテーション部  
回復期リハビリテーション病棟  
理学療法士

保健学専攻 義肢装具自立支援学分野1年  
**渡邊 真さん**  
(理学療法学科 2015年卒)



# NUHW同窓会は こんな活動をしています。



### 連携研修会

母校での連携教育を踏襲し、同窓生の「卒後教育・生涯教育の充実」と「同窓生同士の交流・親睦」を目的に毎年開催しています♪



### 在学生支援・応援



各クラブの大会応援や連携総合ゼミでのサポートなど、様々な形で後輩たちをバックアップしています♪



大学にあるこの時計も「同窓会」からのプレゼントなんです♪

国家試験合格や卒業後の活躍を願い、同窓会から全4年生に想いを込めたグッズを寄贈しています♪

### 合格祈願・大願成就グッズ



### 同窓会誌

毎年春(3月)、秋(9月)に発行しています。同窓生や母校の近況をお届けしています!!



### ホームページ

同窓生や大学の近況、同窓会イベントの案内など、様々な情報発信をしています!!



### 役員会

年に数回、全国各地から役員が集まり、同窓会事業について協議しています。



### ホームカミングデー

同窓生が母校に集まることを目的にした会です。たくさんの同窓生に足を運んでもらえるような企画を考えております。



### 園児募集中 大学構内に「こども園」を開設!

「新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園」を構内に開設しました。地域にお住まいのお子様も対象となりますので、入園に関心のある方はお気軽に本園(☎025-257-4004)までお問合せください。





## 編集後記

同窓生が8,300名を超えました。それに伴い、同窓生の活動・活躍の場も“新潟～日本全国～世界”に拡大しております。そこに焦点をあて、特集記事では世界で活躍する同窓生をご紹介いたしました。このように世界で活躍する同窓生は私たちの誇りであります。今年度、同窓会設立15周年を迎えます。秋には、設立15周年記念式典を予定しております。各分野の最前線で活躍する同窓生の皆様にお会いできることを楽しみにしております。



### 各種変更手続き

現住所、苗字の変更や送付不要のご連絡は、下記QRコードまたは本会ホームページ(会員情報住所変更届出)よりご変更の手続きをお願いします。  
新潟医療福祉大学同窓会支援室 mail : dosokai@nuhw.ac.jp



お問い合わせ先

新潟医療福祉大学同窓会 新潟県新潟市北区島見町1398番地 新潟医療福祉大学事務局内 同窓会支援室 TEL 025-257-4500 Mail dosokai@nuhw.ac.jp

Publisher : 新潟医療福祉大学同窓会 Plan & Edit : 新潟医療福祉大学同窓会支援室 Design : 株式会社タカヨシ